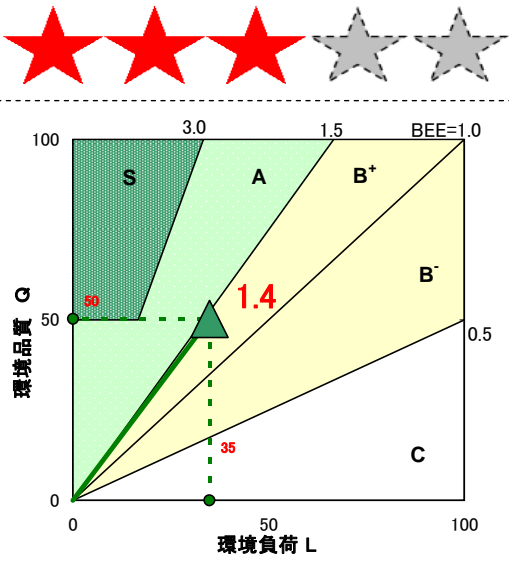


# CASBEE<sup>®</sup>熊本《新築》【性能表示】

■ 建物概要				■ 外観	
建物名称	甲佐中学校校舎改築工事	階数	地上3F		
建設地	上益城郡甲佐町大字中横田300他14筆	構造	RC造		
用途地域	指定なし、指定なし	平均居住人員	400 人		
気候区分	地域区分IV	年間使用時間	2,500 時間/年		
建物用途	学校	評価の段階	実施設計段階評価		
竣工年	2012年2月 予定	評価の実施日	2011年7月20日		
敷地面積	30,944 m <sup>2</sup>	作成者			
建築面積	2,290 m <sup>2</sup>	確認日	2011年7月21日		
延床面積	5,737 m <sup>2</sup>	確認者			

## 1 CASBEE評価結果

■ 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)



環境品質 G

環境負荷 L

BEE = 1.4

■ BEE(環境効率) =  $\frac{Q \text{ (環境品質)}}{L \text{ (環境負荷)}}$


■ 環境効率評価基準

ランク	ランク表示	評価	判定値	
			BEE値	Q値
S	★★★★★	素晴らしい	3.0以上	50以上
A	★★★★	大変良い	1.5以上3.0未満	—
B+	★★★	良い	1.0以上1.5未満	—
B-	★★	やや劣る	0.5以上1.0未満	—
C	★	劣る	0.5未満	—

■ ライフサイクルCO<sub>2</sub> 排出性能評価基準

判定値(排出率)	ランク表示
30%以下	☆☆☆☆☆
30%超60%以下	☆☆☆☆
60%超80%以下	☆☆☆
80%超100%以下	☆☆
100%超	☆

■ ライフサイクルCO<sub>2</sub>排出性能(ランク表示)



排出率

**80%**

## 2 熊本県重点評価結果

■ 重点事項総合評価



重点事項	評価点
【重点事項1】 温室効果ガス排出量削減の推進	101.2
【重点事項2】 安全安心で暮らしやすい社会の実現	82.5
【重点事項3】 県の地域資源の有効活用と保全	77.5
【重点事項4】 循環型社会の実現	83.2

評価点

**89**

■ 熊本県重点評価基準

判定値(評価点)	ランク表示
100点以上	★★★★★
80点以上100点未満	★★★★
60点以上80点未満	★★★
40点以上60点未満	★★
40点未満	★

※評価点は、100点以上が推奨です。

# CASBEE<sup>®</sup>熊本《新築》【評価結果】

■使用評価マニュアル：CASBEE-新築(簡易版)2010年版 使用評価ソフト：CASBEE-NCb\_2010(v.1.3)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	甲佐中学校校舎改築工事	階数	地上3F
建設地	上益城郡甲佐町大字中横田300地14筆	構造	RC造
用途地域	指定なし、指定なし	平均居住人員	400 人
気候区分	地域区分IV	年間使用時間	2,500 時間/年
建物用途	学校	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2012年2月 予定	評価の実施日	2011年7月20日
敷地面積	30,944 m <sup>2</sup>	作成者	
建築面積	2,290 m <sup>2</sup>	確認日	2011年7月21日
延床面積	5,737 m <sup>2</sup>	確認者	



### 2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

**BEE = 1.4**

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★★★★★

### 2-2 ライフサイクルCO<sub>2</sub>(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外のオンサイト手法 ④上記+オフサイト手法

### 2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

### 2-4 中項目の評価(バーチャート)

**Q のスコア = 3.0**

#### Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.0

#### Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.8

#### Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 2.1

**LR のスコア = 3.6**

#### LR1 エネルギー

LR1のスコア = 4.3

#### LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.2

#### LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.0

### 3 熊本県重点評価結果

**重点事項総合評価**

評価点 = 89

**重点事項1: 温室効果ガス排出量削減の推進**

評価点 = 101

**重点事項2: 安全安心で暮らしやすい社会の実現**

評価点 = 83

**重点事項3: 県の地域資源の有効活用と保全**

評価点 = 78

**重点事項4: 循環型社会の実現**

評価点 = 83

**重点事項の評価(レーダーチャート)**

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Building Environmental Efficiency (建築物の環境効率)  
 ■「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 ■評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される  
 ■LCCO<sub>2</sub>の算定条件等については、「LCCO<sub>2</sub>算定条件シート」を参照されたい

# CASBEE<sup>®</sup>熊本《新築》【配慮事項】

## 4 設計上の配慮事項

### 総合

注) 設計における総合的なコンセプトを簡潔に記載してください。

- ・誰もが利用しやすい施設として、各階に多目的便所の設置や階段の蹴上、踏み面等、支障をきたさないように配慮をした。また、生徒が触れる場所や目に付く場所には、可能な限り木を使用し室内環境の快適性や環境負荷の低減に努めた。

### Q1 室内環境

注) 「Q1 室内環境」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。

- ・十分な開口を設けることにより、良好な昼光を取り入れることができ、十分な換気が行われ良好な室内環境を作り出す。
- ・全面禁煙とし、非喫煙者が煙に曝されないような対策がとられている。

### Q2 サービス性能

注) 「Q2 サービス性能」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。

- ・誰もが利用しやすいようバリアフリー計画がなされている。
- ・積極的な節水機器の採用で、節水を図る。
- ・更新必要間隔の長い内装仕上げ、給排水配管を採用し耐久性に努める。
- ・利用者にとって広く感じる空間があり、快適さを与える。

### Q3 室外環境（敷地内）

注) 「Q3 室外環境（敷地内）」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。

- ・中庭があり、開放的な空間を形成している。

### LR1 エネルギー

注) 「LR1 エネルギー」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。

- ・太陽光パネルを設置し、自然エネルギーを利用することで、環境への負荷を軽減。
- ・LED照明を採用することで、省エネルギーに努める。

### LR2 資源・マテリアル

注) 「LR2 資源・マテリアル」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。

- ・節水水栓、節水型便器の採用で節水を図る。
- ・躯体と仕上げ材が容易に分別可能となっており、解体の際にリサイクルを促進する。

### LR3 敷地外環境

注) 「LR3 敷地外環境」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。

- ・広告物照明を扱っていない。
- ・適切な量の自転車置き場を確保している。

### その他

注) 上記の6つのカテゴリー以外に、建設工事における廃棄物削減・リサイクル、歴史的建造物の保存など、建物自体の環境性能としてCASBEEで評価し難い環境配慮の取組みがあれば、ここに記載してください。

**CASBEE-新築(簡易版)2010年版**  
**甲佐中学校校舎改築工事**

欄に数値またはコメントを記入

■使用評価マニュアル CASBEE-新築(簡易版)2010年版  
 ■評価ソフト: CASBEE-NCb\_2010(v.1.3)

スコアシート		実施設計段階		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み係数	評価点	重み係数			
<b>Q 建築物の環境品質</b>								<b>3.0</b>
<b>Q1 室内環境</b>			<b>0.40</b>					<b>3.0</b>
<b>1 音環境</b>		<b>2.2</b>	0.15	-	-			2.2
1.1 騒音		<b>4.0</b>	0.40	-	-			
1.1.1 室内騒音レベル	45dB(A)、普通教室	<b>4.0</b>	1.00	<b>3.0</b>	-			
	設備騒音対策		-		-			
1.2 遮音		<b>1.0</b>	0.40	-	-			
1.2.1 開口部遮音性能		<b>1.0</b>	0.30	<b>3.0</b>	-			
1.2.2 界壁遮音性能		<b>1.0</b>	0.30	<b>3.0</b>	-			
1.2.3 界床遮音性能(軽量衝撃源)		<b>1.0</b>	0.20	<b>3.0</b>	-			
1.2.4 界床遮音性能(重量衝撃源)		<b>1.0</b>	0.20	<b>3.0</b>	-			
1.3 吸音		<b>1.0</b>	0.20	<b>3.0</b>	-			
<b>2 温熱環境</b>		<b>3.0</b>	0.35	-	-			<b>3.0</b>
2.1 室温制御		<b>3.0</b>	0.50	-	-			
2.1.1 室温		<b>3.0</b>	0.60	<b>3.0</b>	-			
2.1.2 負荷変動・過渡制御性			-		-			
2.1.3 外皮性能		<b>3.0</b>	0.40	<b>3.0</b>	-			
2.1.4 ゾーン別制御性		<b>3.0</b>	-		-			
2.1.5 温度・湿度制御			-		-			
2.1.6 種別制御			-		-			
2.1.7 時間外空調に対する配慮			-		-			
2.1.8 監視システム			-		-			
2.2 湿度制御		<b>3.0</b>	0.20	<b>3.0</b>	-			
2.3 空調方式		<b>3.0</b>	0.30	<b>3.0</b>	-			
<b>3 光・視環境</b>		<b>3.6</b>	0.25	-	-			<b>3.6</b>
3.1 昼光利用		<b>4.2</b>	0.30	-	-			
3.1.1 昼光率	3.1%(普通教室)	<b>5.0</b>	0.60	<b>3.0</b>	-			
3.1.2 方位別開口			-	<b>3.0</b>	-			
3.1.3 昼光利用設備		<b>3.0</b>	0.40	<b>3.0</b>	-			
3.2 グレア対策		<b>4.0</b>	0.30	-	-			
3.2.1 照明器具のグレア			-		-			
3.2.2 昼光制御	庇、カーテンの設置	<b>4.0</b>	1.00	<b>3.0</b>	-			
3.2.3 眩り込み対策			-		-			
3.3 照度		<b>3.0</b>	0.15	<b>3.0</b>	-			
3.4 照明制御		<b>3.0</b>	0.25	<b>3.0</b>	-			
<b>4 空気質環境</b>		<b>3.0</b>	0.25	-	-			<b>3.0</b>
4.1 発生源対策		<b>3.0</b>	0.50	-	-			
4.1.1 化学汚染物質		<b>3.0</b>	1.00	<b>3.0</b>	-			
4.1.2 アスベスト対策			-		-			
4.1.3 ダニ・カビ等			-		-			
4.1.4 レジオネラ対策			-		-			
4.2 換気		<b>3.0</b>	0.30	-	-			
4.2.1 換気量		<b>3.0</b>	0.33	<b>3.0</b>	-			
4.2.2 自然換気性能	平均値0.162(1/10以上)	<b>5.0</b>	0.33	<b>3.0</b>	-			
4.2.3 取り入れ外気への配慮		<b>1.0</b>	0.33	<b>3.0</b>	-			
4.2.4 給気計画			-		-			
4.3 運用管理		<b>3.0</b>	0.20	-	-			
4.3.1 CO <sub>2</sub> の監視		<b>1.0</b>	0.50	-	-			
4.3.2 喫煙の制御	建物全体が禁煙 喫煙室なし	<b>5.0</b>	0.50	-	-			
<b>Q2 サービス性能</b>		-	0.30	-	-			<b>3.8</b>
<b>1 機能性</b>		<b>4.2</b>	0.40	-	-			<b>4.2</b>
1.1 機能性・使いやすさ		<b>3.0</b>	0.40	-	-			
1.1.1 広さ・収納性		<b>3.0</b>	-	<b>3.0</b>	-			
1.1.2 高度情報通信設備対応		<b>3.0</b>	-	<b>3.0</b>	-			
1.1.3 バリアフリー計画	バリアフリー新法の円滑化誘導基準を満足	<b>5.0</b>	1.00	-	-			
1.2 心理性・快適性		<b>4.0</b>	0.30	-	-			
1.2.1 広さ感・景観	天井高:2.8m	<b>5.0</b>	0.50	<b>3.0</b>	-			
1.2.2 リフレッシュスペース		<b>3.0</b>	-		-			
1.2.3 内装計画		<b>3.0</b>	0.50		-			
1.3 維持管理		<b>3.5</b>	0.30	-	-			
1.3.1 維持管理に配慮した設計		<b>3.0</b>	0.50	-	-			
1.3.2 維持管理用機能の確保	清掃用具、清掃用流しの設置	<b>4.0</b>	0.50	-	-			
1.3.3 衛生管理業務			-		-			
<b>2 耐用性・信頼性</b>		<b>3.1</b>	0.31	-	-			<b>3.1</b>
2.1 耐震・免震		<b>3.0</b>	0.48	-	-			
2.1.1 耐震性		<b>3.0</b>	0.80	-	-			
2.1.2 免震・制振性能		<b>3.0</b>	0.20	-	-			
2.2 部品・部材の耐用年数		<b>3.2</b>	0.33	-	-			
2.2.1 躯体材料の耐用年数		<b>3.0</b>	0.23	-	-			
2.2.2 外壁仕上げ材の補修必要間隔		<b>2.0</b>	0.23	-	-			
2.2.3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔	木質系ボード(60年)	<b>5.0</b>	0.09	-	-			
2.2.4 空調換気ダクトの更新必要間隔		<b>3.0</b>	0.08	-	-			
2.2.5 空調・給排水配管の更新必要間隔	Bを使用	<b>5.0</b>	0.15	-	-			
2.2.6 主要設備機器の更新必要間隔		<b>3.0</b>	0.23	-	-			

2.3 適切な更新						
2.4 信頼性			3.2	0.19	-	-
1	空調・換気設備		3.0	0.20	-	-
2	給排水・衛生設備	節水型器具の採用	4.0	0.20	-	-
3	電気設備		3.0	0.20	-	-
4	機械・配管支持方法		3.0	0.20	-	-
5	通信・情報設備		3.0	0.20	-	-
3 対応性・更新性			3.9	0.29	-	3.9
3.1 空間のゆとり			4.6	0.31	-	-
1	階高のゆとり	階高: 4.05m	5.0	0.60	3.0	-
2	空間の形状・自由さ	比率: 0.2	4.0	0.40	3.0	-
3.2 荷重のゆとり		床荷重: 2900N/m <sup>2</sup>	4.0	0.31	3.0	-
3.3 設備の更新性			3.4	0.38	-	-
1	空調配管の更新性		3.0	0.17	-	-
2	給排水管の更新性		3.0	0.17	-	-
3	電気配線の更新性	仕上材を痛めることなく、更新・修繕できる。	5.0	0.11	-	-
4	通信配線の更新性	仕上材を痛めることなく、更新・修繕できる。	5.0	0.11	-	-
5	設備機器の更新性		3.0	0.22	-	-
6	バックアップスペースの確保		3.0	0.22	-	-
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.30	-	2.1
1 生物環境の保全と創出			1.0	0.30	-	1.0
2 まちなみ・景観への配慮			2.0	0.40	-	2.0
3 地域性・アメニティへの配慮			3.5	0.30	-	3.5
3.1	地域性への配慮、快適性の向上	中庭があり、開放的な空間を形成している	4.0	0.50	-	-
3.2	敷地内温熱環境の向上		3.0	0.50	-	-
LR 建築物の環境負荷低減性			-	-	-	3.6
LR1 エネルギー			-	0.40	-	4.3
1 建物の熱負荷抑制		ペアガラスの採用	5.0	0.30	-	5.0
2 自然エネルギー利用			3.5	0.20	-	3.5
2.1	自然エネルギーの直接利用		3.0	0.50	-	-
2.2	自然エネルギーの変換利用	太陽光パネルの設置	4.0	0.50	-	-
3 設備システムの高効率化		高効率空調の採用	5.0	0.30	-	5.0
		集合住宅以外の評価(ERRIによる評価)	5.0		-	-
		集合住宅の評価	3.6		-	-
4 効率的運用			3.0	0.20	-	3.0
4.1	モニタリング		3.0	0.50	-	-
4.2	運用管理体制		3.0	0.50	-	-
LR2 資源・マテリアル			-	0.30	-	3.2
1 水資源保護			3.4	0.15	-	3.4
1.1	節水	節水水栓、節水型便器使用	4.0	0.40	-	-
1.2	雨水利用・雑排水等の利用		3.0	0.60	-	-
1	雨水利用システム導入の有無		3.0	0.67	-	-
2	雑排水等利用システム導入の有無		3.0	0.33	-	-
2 非再生性資源の使用量削減			3.4	0.63	-	3.4
2.1	材料使用量の削減		3.0	0.07	-	-
2.2	既存建築躯体等の継続使用		3.0	0.24	-	-
2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用		3.0	0.20	-	-
2.4	非構造材料におけるリサイクル材の使用	再生骨材の路盤材利用	3.0	0.20	-	-
2.5	持続可能な森林から産出された木材		3.0	0.05	-	-
2.6	部材の再利用可能性向上への取組み	躯体と仕上材が容易に分別可能	5.0	0.24	-	-
3 汚染物質含有材料の使用回避			2.3	0.22	-	2.3
3.1	有害物質を含まない材料の使用		3.0	0.32	-	-
3.2	フロン・ハロンの回避		2.0	0.68	-	-
1	消火剤		1.0	0.33	-	-
2	発泡剤(断熱材等)		2.0	0.33	-	-
3	冷媒		3.0	0.33	-	-
LR3 敷地外環境			-	0.30	-	3.0
1 地球温暖化への配慮		CO2排出率=82%	3.7	0.33	-	3.7
2 地域環境への配慮			2.9	0.33	-	2.9
2.1	大気汚染防止		3.0	0.25	-	-
2.2	温熱環境悪化の改善		3.0	0.50	-	-
2.3	地域インフラへの負荷抑制		2.6	0.25	-	-
1	雨水排水負荷低減		-	-	-	-
2	汚水処理負荷抑制		3.0	0.33	-	-
3	交通負荷抑制		3.0	0.33	-	-
4	廃棄物処理負荷抑制		2.0	0.33	-	-
3 周辺環境への配慮			2.5	0.33	-	2.5
3.1	騒音・振動・悪臭の防止		3.0	0.40	-	-
1	騒音		3.0	0.50	-	-
2	振動		3.0	0.50	-	-
3	悪臭		-	-	-	-
3.2	風害・砂塵・日照阻害の抑制		1.6	0.40	-	-
1	風害の抑制		1.0	0.60	-	-
2	砂塵の抑制		2.0	0.20	-	-
3	日照阻害の抑制		3.0	0.20	-	-
3.3	光害の抑制		3.7	0.20	-	-
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	光害対策ガイドラインの一部を満足、広告物照明の取扱いなし	4.0	0.70	-	-
2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30	-	-

**熊本県重点評価結果スコアシート** 実施設計段階

建物名称 **甲佐中学校校舎改築工事**

■評価ソフト: CASBEE-Ncb\_2010(v1.3)\_kmt2011(v1.0)

■使用評価マニュアル: CASBEE熊本《新築》2011年版

★熊本県重点評価結果				総合評価点	89.1	
重点事項				評価点	重点事項 重み係数	評価配点
重点項目(配慮項目)	スコア	重み 係数				
<b>① 温室効果ガス排出量削減の推進</b>				101.2	0.40	40.48
Q1-2.1.3	外皮性能	3.0	0.05			
Q1-3.1.3	昼光利用設備	3.0	0.05			
Q1-3.2.2	昼光制御	4.0	0.05			
LR1-1	建物の熱負荷抑制	5.0	0.15			
LR1-2	自然エネルギー利用	3.5	0.20			
LR1-3	設備システムの高効率化	5.0	0.30			
LR2-2.1	材料使用量の削減	3.0	0.10			
LR3-2.3.3	交通負荷抑制	3.0	0.10			
<b>② 安全安心で暮らしやすい社会の実現</b>				82.5	0.20	16.50
Q2-1.1.3	バリアフリー計画	5.0	0.25			
Q2-2.1.1	耐震性	3.0	0.25			
Q3-1	生物環境の保全と創出	1.0	0.15			
Q3-3	地域性・アメニティへの配慮	3.5	0.20			
LR3-2.2	温熱環境悪化の改善	3.0	0.15			
<b>③ 県の地域資源の有効活用と保全</b>				77.5	0.20	15.50
Q3-2	まちなみ・景観への配慮	2.0	0.20			
LR2-1.1	節水	4.0	0.30			
LR2-1.2.1	雨水利用システム導入	3.0	0.20			
LR2-2.5	持続可能な森林から産出された木材	3.0	0.30			
<b>④ 循環型社会の実現</b>				83.2	0.20	16.64
Q2-2.2	部品・部材の耐用年数	3.2	0.30			
Q2-3	対応性・更新性	3.9	0.30			
LR2-2.2	既存建築躯体等の継続使用	3.0	0.10			
LR2-2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	3.0	0.15			
LR2-2.4	非構造材料におけるリサイクル材の使用	3.0	0.15			

■評価点算出式

評価点は、以下の方法により算出しています。

◆総合評価結果

総合評価点 = (各重点事項の評価点 × 各重点事項の重み係数)の総和  
 ※重み係数の総和は、「1」であること。

◆各重点事項(①~④の項目)

評価点 = (各重点項目のスコア × 各重点項目の重み係数)の総和 × (5/4) × 20  
 ※重み係数の総和は、「1」であること。

※(5/4) × 20 : スコア4点を評価点100点に変換するスケーリング定数